



めざして 百年企業を

とよなか物語

特集



2016 October Vol.6



百年の のれんを 守る

和田亮介さん

和田哲株式会社元代表取締役会長



Profile

昭和 6年 島根県松江市生まれ
 昭和29年 島根大学文理学部卒業。東レ株式会社入社
 昭和33年 和田家へ入り婿
 昭和36年 和田哲株式会社入社(業種 寝具素材及び製品)
 昭和50年 同社三代目社長就任
 平成12年 同社会長就任
 平成28年 同社会長退任

大阪商工会議所名誉議員
 平成 8年 藍綬褒章受章
 平成11年 大阪市市民表彰 文化功勞部門
 昭和33年から平成28年4月まで岡町南に在住。

著書

「扇子商法」「三代目まんだら」「船場の目」「船場からくさ」「船場往
 来」「乱世を生きる経営」「あきない夜咄(よばなし)」「船場吹き寄せ」

私は、明治40年(1907年)創業の船場の中小企業に三代目として迎えられ、創業者である義理の祖父から「商人としての心得」をたたき込まれました。「小さな会社がいままで生き続けるためには、どんな不況にも潰れないような体制にしておかないといけない」と、必要以上に人を増やさない、借金しない、無駄をしない姿勢を好況のときにも一貫してもち続ける大切さを学びました。利益や売上を大きくすることよりも企業の永続性を第一に考えた経営方針です。そのために祖父は、仕入れ先、売り先双方を大切にし「お蔭様」「有り難い」の気持ちを忘れませんでした。従業員に対しても毎日一人

ひとりに声をかけて、その顔色やしぐさから、健康状態や仕事の進み具合まで観察していました。仕事の失敗はその場で指摘する一方、うまくいった時はねぎらいの言葉をかけて、従業員を一人前に育てる努力を惜しみませんでした。

企業経営の本来の目的は、会社が儲かることではなく「人の幸せ」のためです。しかし、組織が大きくなりすぎると、とすれば組織を維持することが目的化してきます。むしろ中小企業のほうがやりがいのある働き方ができるのです。経営者と従業員の距離が近いので、顔を合わせて話をする機会も多いし、一体感をもちやすくなります。また、従業員一人ひとりの個性を日頃から良く知っているからこそ、適材適所に配置することで、期待以上の力を発揮してくれることがあります。そんな部下の成長を間近で見ることがするのも、中小企業経営者ならではの醍醐味。中小企業のメリットを活かすことで小さくても質の高い組織をつくることができます。これを私は「人本主義」と言っています。「人」が大切ということです。

ただし、どんな商売でも、業をして儲かるものではありません。人一倍努力し苦労して、人のしないことをしていかないといけない。経営者は、「苦労のしがいのある会社」をつくらないといけないのです。私が船場の生活で学んだことは、経営の考え方だけでなく、人間の奥深い心の機微や悲劇・喜劇に満ちた生身の人間の姿です。中小企業経営者であったからこそその人との出会いや多様な経験が、私自身の人生を豊かなものにしてくれました。

目次

特集 百年企業をめざって

とよなか魅力エッセイ

百年ののれんを守る

2

オンリーワンのものづくり

4

鉄道、船舶、航空分野で活躍する豊中の企業

6

文化創造を支える

9

異色のコラボによるスイーツ開発プロジェクト
「Toyonaka Sky Sweets」

10

豊中で農業を守る

12

飛躍する女性経営者たち

14

豊中の産業豆知識

16

豊中市は、大阪国際空港や鉄道、高速道路などによる交通アクセスが抜群のハイモビリティ都市。市内の事業所数は13000社を超え、大阪府内で4番目に数えられる産業のまちでもあります。市内事業所のほとんどが中小企業という豊中には、自社の高い技術を活かした画期的な製品を開発し続ける事業所が多く存在します。そんな産業のまち・豊中の魅力を紹介いたします。

オンラインワンのもづくり

豊中からプレス加工で

新たな価値を創造

富士金属株式会社 代表取締役 山中芳さん



優れたプレス加工技術によって、業界では、鉄板の魔術師とも呼ばれる富士金属株式会社。同社の最大の強みは、多種多様な形状の金属部品を、1枚の平板からプレス加工のみで、一体成型できる「超深絞りプレス加工」の技術にあります。金属加工の常識を破るこのオンラインワン技術は、従来の溶接やロー付け、切削加工といった製造工程を不要にし、コスト削減や製造時間の短縮、部品の軽量化、原材料の節約など多くのメリットをもたらします。



平成28年(2016年)2月に竣工した新工場。併せて「事業継続計画(BCP)」を策定し、不測の事態においても供給責任を確実に果たせる体制を構築しています

高い競争優位性を支えるのは、プレス機にセットする「金型」。通常のプレス加工では、金型の設計・製造は外部の専門メーカーに委託するのが一般ですが、同社は約50年前から独自の設計ノウハウを駆使した自社金型による「貫生産」を行ってきた。その高度な技術力は品質要求の厳しい自動車業界からも高い評価を受け、現在は売上の約7割が自動車関連部品。顧客のグローバル展開に合わせて、近年はインドネシアなどでの海外事業も拡大しています。



複雑な形状の部品も1枚の平板からプレス加工だけで実現

【企業情報】

住所：原田中 1-12-3
創業：昭和25年
設立：昭和43年
従業員：65名
主な事業内容：超深絞りプレス加工、精密絞り加工

「こんなものまで深絞り」をキャッチフレーズに、各地の展示会にも積極的に出展して独創技術をアピールする同社ですが、展示会の看板には社名の前に必ず「大阪豊中」の文字を入れます。「大阪の金属加工会社」という「あ、東大阪ですか」とよく言われるんですが、「豊中」にもこんな独自技術をもつ企業があることを知って欲しい」と山中社長。そこには企業のブランド力向上とともに、「ものづくりのまち豊中」の誇りが込められています。

機械職人とシヨコラティエがコラボ

オンラインワンのもづくり

チョコレート専門店も経営する 異色の機械メーカー

加藤工業株式会社 代表取締役 加藤智一さん

食品・化学用機械では、製造からメンテナンスまでの一貫体制で顧客との長期間にわたる取引実績が豊富な加藤工業株式会社。なかでもチョコレート製造用機械では、ワールドチョコレートマスターズ2007で優勝したシヨコラティエ水野直己氏と共同開発するなど、その技術力は折り紙つき。平成26年(2014年)にはテレビドラマ「失恋シヨコラティエ(ラジテレビ)」に美術協力するなどチョコレート機械では全国区のブランドです。

さらに自社機械の品質を実証するために、自ら世界のチョコレートを販売する専門店を開店して、いまや地域情報誌のスイーツ特集では必ず紹介される人気のお店となっています。

「おそくない物を作ってオンラインワンをめざすことが創業時からの企業理念。それを支えるのが高い溶接技術です。温度や振動など製造現場の過酷な環境に耐える機械設備を提供しお客様の信頼を得て

います」と加藤智一社長は話します。機械メーカーがチョコレート販売という意外な取り組みも、オンラインワンをめざすチャレンジ精神の賜物かもしれません。

溶接技術コンクール
全国大会で
入賞するほどの
高い技術が強み

【企業情報】

住所：原田中 1-17-5
設立：昭和46年
従業員：23名
主な事業内容：食品・化学用機械設計・製造



おいしいチョコレートが人気で
パレンタインデーには長蛇の列ができます。
クオリティを追求したチョコレート製造機が稼働



「鉄道、船舶、航空」分野で活躍する豊中の企業

鉄道、船舶、航空機などの輸送手段は、経済活動の根幹です。なかでも日本の鉄道造船は世界最先端の技術を誇ります。その一翼を担う部品供給を豊中の会社が行っていることをご存知でしょうか。また、空港のあるまちならではの航空機関連産業もご紹介します。

鉄道

国内車両メーカーすべてと取引

株式会社トヨーコーポレーションの看板商品は車両運転台。月産8台が限界という運転台は、1台1台板金加工で型を形成する手づくり品。製造を行っているのは、車両メーカーの系列以外では全国でも3社程度という希少な存在です。

また、40年にわたる車両搭載機器の製造実績で、いまや国内すべての車両メーカーに採用されて、全国各地で製品が活躍しています。



近年は、操作性と安全性に加えてデザイン性も重視されています

●株式会社トヨーコーポレーション
豊南町東3-8-7

アナログ技術を最大活用し 既成概念を超える

創業当初は、監視盤や制御盤の組立が中心。数多い配線を減らせないと、昭和55年（1980年）に「多重伝送システム」の開発に着手。苦心の末、完成した多重伝送機器では、わずか2本の電線で最大256点のオンオフ信号、最大2000点の計測信号の送信が可能となりました。配線が大幅に減るため工事コストを低減でき、また既設の電線を活用できるため、長距離伝送が可能で機器の追加も簡単です。

平成16年（2004年）に、阪急電鉄で超長距離（大阪―京都間50km）伝送の実験に成功。翌年には台湾新幹線に監視システムを納入したのがきっかけとなり国内鉄道会社との取引が増加。現在は、阪急電鉄全線の沿線管理システムをはじめとして全国的に導入されています。

●豊中計装株式会社
名神口3-7-13



路切そばに設置されたボックスのなかに同社の監視・計測システムが格納されています

南極観測船にも採用された実績

最小限の空間で食事を作らなければならない船の厨房では、ムダのない合理的な設計と揺れに対する安定性、長年の酷使に耐える堅牢さが求められます。造船工事中に厨房機器を運び込み、機器の足をデッキに溶接したうえコンクリートで固定します。

国内に数社しかない船舶用厨房機器メーカーとして、同社は長年にわたる実績を有し、外洋航路の大型客船や自衛艦など、多数の納入先を誇ります。

●フジオ調理工業株式会社
名神口1-6-4



煮炊き物から焼き物、パンやケーキを焼くオープンまで一体になったクッキングレンジ



一度に30～50リッターのスープや味噌汁を作るスープポイラー

船舶用電子機器で豊富な実績

船舶用電子機器の製造は、トランジスタラジオの製造で培ったアナログ技術を見込まれて、船舶用FM無線機の生産を受託したことがはじまり。以来、大手メーカーとの取引は30年に及びます。漁船に搭載されるソナー（水中を伝播する音波を用いて対象物を探知する）、商船向けにはレーダーやGPSによる航海計器などを完全OEM（相手先ブランド名製造）で生産しています。

他にも同社は、病院向けプリペイドカード式課金装置ではトップシェアを誇り、近年は、「離床センサー」などの医療・介護用センサーや高精度GPSの応用製品として災害対策計測装置などの独自開発を進めています。

●長田電機株式会社
大黒町1-3-22



海上上の安全情報を受信する機器。大手メーカーの最終製品として出荷されます

船舶

厳重な検査体制で「安心」を提供

船舶をはじめ、建設機械や農業機械などに多く使われている油圧装置。その装置の要となる部品の一つが油圧ミニホールドブロックです。これは、直方体の金属に穴をあけて内部に油圧回路を構成する油路を形成したもので、この部品により油圧装置の小型・軽量化が可能になり、配管も少なくて済みます。同品を50年以上にわたり一貫して製造し続けていくのが共栄機械株式会社。わずかなゴミの付着も許さない徹底した品質管理で、油圧システムの大手メーカーすべてに製品を提供しています。

●共栄機械株式会社
利倉1-1-3



船舶関連では、ハッチカバー、デッキクレーン、巻上げウインチなど重量物を扱う機械に用いられています



高品質の整備で 飛行機の安全を担保

MROとは「メンテナンス・リペア・オーバーホール」の略で、格納庫を使った航空機体の点検・整備・改修のこと。例えばおよそ2年毎に実施する分解・点検を伴う整備は60人体制で約10日間かけて行われます。現在、アジアでは中国を筆頭にインドネシアやフィリピンなど各地にMROサービス専門企業が勃興し、日本の航空会社も保有機体の整備の多くをこれら海外MRO企業に委託しているのが現状です。

そうしたなか日本を代表する航空機整備の専門会社として平成27年(2015年)に設立されたMRO Japan株式会社は、廉価な海外MROに対し「ジャパンクオリティ」で対抗。大阪国際空港では全日空をはじめPeach Aviation、ソラシドエア、アイベックスエアラインズ、バニラエアなど国内LCC各社とも契約を交わし、高品質の航空機整備サービスを提供しています。

●MRO Japan株式会社
箕輪3-18-1

新しい音楽シーンを生み出す

株式会社ノースサウンド 夕日丘2-17-1

ゲームや遊技機などのサウンド制作で多数の実績をもつ株式会社ノースサウンド。代表の中沢昭宏さんを中心に音楽好きのスタッフが、BGMから効果音やジングルまで、あらゆる音楽の作曲・アレンジを行っています。

当社がいま一番力を入れているのは、オリジナルレーベルを立ち上げて、アーティストとアイドルグループを育てること。アーティストから楽曲のコンセプトづくり、プロモーション企画など、いままでも経験したことのない業務はとて大変だけれどやりがいがあるとのこと。現在は、オーディションで合格したアーティストの個性を活かした楽曲の制作中で、冬からはアーティストのデビューに合わせ、プロモーション活動を本格化させる予定です。自ら育てたアーティストたちが活躍する日を夢見て、新しい曲づくりにも余念がありません。



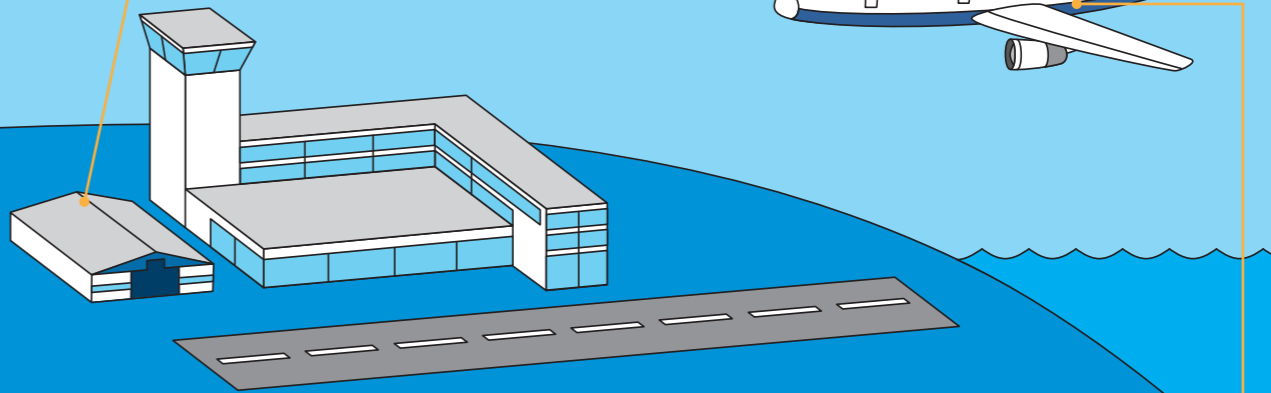
Nord Tune Records

「北摂」を意識した方位記号と音楽のウェーブを組み合わせたオリジナルレーベルのロゴマーク



事務所内では、ひとりずつのブースで楽曲制作にいそむ

航空



国内線就航第1便の機内食調製

株式会社朝日エアポートサービスは、昭和26年(1951年)、日本航空国内線第1便大阪〜東京間の機内食を調製した老舗企業。現在は、大阪国際空港に隣接する工場で、毎日ほぼ24時間体制でつくられています。

すべての食材は、調理中の厳しい衛生管理に加え、梱包状態や冷蔵・冷凍品の温度まで厳重にチェックされ、食の安全には細心の注意を払います。一方、有名料亭が監修するメニューでは、何度も料亭に向いて料理の出来上がり工夫するなど、おいしさは当然のこと、季節感や見た目の美しさでも乗客に喜んでいただける機内食づくりに取り組み、空のひとときを彩ります。

●株式会社朝日エアポートサービス
箕輪3-2-7



お弁当スタイルの機内食もあります



特殊トラックで機体に接着させ、機内用品・機内食を積み込みます

文化施設やイベントを魅力的に演出

株式会社コタキクリエイティブワークス 三和町3-7-38

主に家電小売店の内装工事を行う工務店が、株式会社コタキクリエイティブワークスの始まり。父親が立ち上げた会社を現社長の小滝祐一さんが手伝うことになり、次々と新しい大工仕事の需要を開拓していきました。

現在は、イベントの装飾・展示会のディスプレイを中心に文化施設の内装一式も手掛け、木工だけでなく多種多様な素材を使って、施設やイベントの目的に合った空間を創り出します。イベントなど非日常空間の楽しさや期待感を演出するために常に新しいアイデアや情報を集めて、来場者がワクワクするような空間づくりをめざし、日々奮闘が続きます。



新梅田シティクリスマスイルミネーション、アクアリウムイベントなどで来場者にサプライズを提供



東海・近畿地方を舞台に愛車のクラシックカーで走るイベント「ラ・フェスタプリマベラ」は、芸能人・著名人も多く参加することで有名。設営すべてと運営の一部を担当します

会員店舗の商品開発等を支援する豊中市小売商業団体連合会、平成27年度(2015年度)から調理・製菓コースを開設して実践的な教育に取り組む梅花高等学校、そして就航都市の周辺自治体に協力して地域活性化を支援するJALグループの株式会社ジェイエア。この三者が連携して、豊中オリジナルの洋菓子を新たに開発した「Toyonaka Sky Sweetsプロジェクト」をご紹介します。



異色のコラボによる スイーツ開発プロジェクト

Toyonaka Sky Sweets

女性8人のプロジェクトチーム

平成27年9月に発足したプロジェクトは、豊中市小売商業団体連合会会員店舗「お茶処吉田」のパティシエ辻村聖さん、梅花高等学校の生徒4人、株式会社ジェイエアの客室乗務員3人の女性8人がメインとなって進められました。商品コンセプトから、味、形状、色合いにいたるまで、「豊中」「空港」をキーワードにアイデアを出し合い、試作品づくりを繰り返しました。同年11月に開催された「とよなか産業フェア」では、試作品を展示して、来場者の声を数多く聞くなど、より完成度の高い商品をめざしました。

豊中産イチゴを使う

商品化にあたってメンバーがこだわったのが、豊中産の食材を使うこと。各方面から情報を集めた結果、今も市内で栽培されているイチゴを使うことにしました。そこで、原田南でイチゴを栽培している西本健一さんの協力を得て、平成28年5月にメンバー自らイチゴを収穫し、ドライストロベリーとジャムに加工して、生菓子と焼き菓子の両方に使えるように準備しました。

商品のコンセプト「へりから、イチゴ」の加工作業まで、いろいろなことを知り、自分がつくるタイミングにも、人に食べてもらうことをつねに考えてつくるようになりました。

(梅花高等学校 プロジェクトメンバー)



それぞれが置かれている立場や環境によって考え方も様々で、日々新鮮なコミュニケーションをとることができたのは貴重な経験でした。

(株式会社ジェイエア客室乗務員 金澤ゆかりさん)



このプロジェクトは、大阪国際空港を拠点にJALグループの地方ネットワークの主翼を担当社が、地域に密着し応援する企画として、まさに実現したかった取り組みです。

(株式会社ジェイエア業務部 實取恭平さん)



食のプロをめざす生徒たちにとって、商品として売り出すプロセスを一から体験できたことは得難い機会です。

(梅花高等学校教頭 田部雅昭さん)



メンバーの思いが形に

商品パッケージや商品説明書もメンバーでアイデアを出し合いました。梅花高等学校の奥美奈子さんが描いたイチゴの絵を使った商品説明書には、メンバーの紹介や商品ができるまでのストーリーがつけられています。

メンバーの思いがこもったスイーツ「Strawberry Much」は、10月15日の市制施行80周年記念式典で初お目見え。「お茶処吉田」での販売やJR大阪駅前のルックアでも催事販売がはじまるなど、一年間にわたるプロジェクトが形になって、次なるステップに向けて羽ばたきます。



「Berry much Cookie」
豊中産イチゴジャムをサンド。
梅花高等学校と株式会社ジェイエアのイメージを形に



Strawberry Much

「Berry much Pound」
縦方向にカットすると豊中産イチゴフレーバーのワニが現れます



「豊中産イチゴ」
かつて豊中市では、勝部、原田、桜井、谷などイチゴが生産され、原田地区にはイチゴジャム製造工場もありました。甘みが強く味が柔らかい品種「宝交早生(ほうこうわせ)」が現在も数軒の農家で栽培されています。

商品説明書にスイーツの特徴をつづっています

宅地化が進む豊中にも、代々受け継がれてきた農地を守り続ける人がいます。新鮮で安全、おいしい野菜を提供するかわらわら、小学生の農業体験や幼稚園の芋ほりなど、地域の子どもたちにも土に触れる機会を提供しています。

豊中で農業を守る

「農のある風景を残そう」

桜井谷あおぞら朝市運営委員会（桜井谷）



ひとり或少しずつでも、みんなで持ち寄れば多種多様な野菜がそろいます

開催場所：JA 大阪北部 桜井谷支店駐車場（桜の町4-1-9）

開催日時：第1・3土曜日 午前9時から（7月・8月は毎週午前8時30分から）

10年ほど前、当時、豊中市農業委員会会長だった阪口博さんは、周囲で耕作をしていない農地が増えていることに危機感を覚えます。そこで、農地の有効活用を所有者に呼びかけるとともに、そのとき野菜を出せる人だけが出す仕組みの「桜井谷あおぞら朝市」を立ち上げました。親の代までは、米や野菜をつくって出荷していた家も多い桜井谷地区。会社勤めをリタイアした人たちが「いまだけ、こだけ、少しだけ」なら自分にもできると呼びかけに応じました。

「約25人の生産者が、無理せず続けられるようにしています。朝市は生産者同士の交流の場でもあり、お客さんの反応を見て、もっといろいろな野菜をつくってみようという意欲にもつながっています」と話すのは運営委員会代表の花岡一さん。いまでは大勢の人が買い物に訪れる朝市は、人と人の交流、生きがいづくり、まちづくりの場にもなっています。

▼豊中産野菜を買い取る場所▲

地域こだわりマルシェ＆野菜市場

毎月第1土曜日10時～

e MIRAI E 環境交流センター（中核校）

くらしかん地産地消イベント

毎月第2水曜日10時～

豊中市立生活情報センターくらしかん（北核校）

地産地消採りたて野菜市

毎月第4木曜日10時～ さわ病院敷地内（城山町）

豊中で農業を守る

「地元産の

おいしい野菜を届けたい」

光久修平さん（小曾根）



各地で開かれる農業講習に参加して栽培知識を吸収します



現在27歳の光久修平さんは、5年前から本格的に農業に取り組み始めました。小さい頃から祖父が丹精込めてつくった野菜が毎日の食卓に並んでいました。祖父が亡くなってからはじめて、その有り難さを実感し、自分がそれを引き継ぎたいと思った」と話します。いまでは、早朝に収穫した野菜を、毎日近くのスーパーに出荷して、評判も上々。

「地域の直売会では、お客さんの反応が直接伝わって勉強になります。これからは近郊野菜というメリットを活かして鮮度重視のおいしい野菜をより多くの人に届けたい」と抱負を話してくれました。

豊中で農業を守る

「安心できる野菜づくりをしたい」

光久隆晴さん（浜）



以前受け入れた農業研修生が描いてくれた看板。8人いた研修生のうち6人がいまでも農業を続けているのがうれしい、と話します

かつては、農業や化学肥料も使っていたという光久隆晴さん。50歳で農業専従になったとき「農業散布に追われるよりも、のんびりとした自然にやさしい農業をしたい」と思ったり話します。以前は固かった土が有機肥料に変えらることで土が柔らかくなったと感動。土が本来持つ力が蘇ったという畑は、公園の落ち葉をもらって土にかぶせたり、乾燥を防ぐからと雑草もあまり抜かないとか。土からの養分をたっぷり含んだ大根や白菜、ホウレンソウなどは、野菜本来の甘みがあると評判。「採れた野菜から種を取ると、買った種よりも生育がいい。そんなことも、みんな野菜が教えてくれる」と言う光久さんは、いま自然体の農業が楽しくてしかたがないと笑います。

豊中で唯一
大阪エコ農産物認証を
取得

豊中で農業を守る

「農業は大切な家業」

中尾俊宏さん・中尾俊治さん（東泉丘・東豊中）

いまでは団地やマンションが立ち並び東泉丘や東豊中で、何代にもわたって農業を営み、その農地を守り続けているのは中尾さんの四兄弟。マンションに囲まれた三男・俊宏さんの畑では、マンションのバルコニーから野菜の収穫作業が終わるのを見届けた住人がすぐさま直売所で購入する

「子どもの頃と周囲の環境は様変わりしたけれど、いまも家業の農業を家族全員で続けていけるのは有り難いこと。子どもたちにも働く親の背中を見せていきたい」と四男の俊治さん。トマトやナスなどの新鮮野菜は、畑のそばに設置する無人販売所で販売するほか、市内の八百屋にも卸しています。



子どもたちも自然と農作業を手伝う習慣が身について、家族みんなで畑を守っています



中尾さんちの「おいしいやさい」販売所



自分の専門性や得意なことをビジネスに結びつけチャレンジする女性たちがいます。困難にぶつかっても立ち向かっていく彼女たちの姿勢や、人としての魅力が道を拓きます。

飛躍する女性経営者たち

「経営危機を乗り越えて大切なものが分かった」

株式会社ユニコーポレーション 代表取締役 辻友美子さん



看護師の仕事の関係で豊中へ。独立して事業を始めた豊中は第二の故郷。ここで職人として成長してきたので生まれ育ったまちよりも思い入れが強い、と言う辻さん

【企業情報】

住所：中桜塚 2-21-7
設立：平成 20 年
主な事業内容：
介護福祉サービス、有料老人ホーム、放課後等デイサービス

平成20年（2008年）に創業してから毎年介護サービス拠点を増やし、事業規模を拡大してきた株式会社ユニコーポレーション。社長の辻友美子さんは、平成24年には第11回女性起業家大賞・最優秀賞（全国商工会議所女性会連合会主催）を受賞するほど注目される存在でした。しかし、急激な拡大路線の反動から、7年目に大きな経営危機に。「売上が増える一方で借入金も増大。個別の事業を詳細にみると経常収支が合っていない。このままでは会社がつぶれる、と思いました」。この時、自分にとって本当に大事なものは何かを改めて問い直した辻さん。医療・介護の業界に長く身をおいてきた者として、終の棲家として入居されている有料老人ホームの利用者や従業員に対する責任を全うしたい、と会社の経営を立て直すために奔走します。

1年間かけて、本当にやりたい事業だけを取捨選択し、個々の事業運営においても細かな工夫を積み重ねていきました。「会社を安定的に続けていくことの難しさを実感しました。一番大変なときに支えてくれた社員には感謝の気持ちでいっぱいです」。危機を乗り越え、経営者としての責任を一層自覚するようになったと話します。



2年前に始めた放課後等デイサービスは、子どもたちの成長に感動の連続。新規の利用を受けられない状態なので、新たな拠点をつくりたいという希望をもっています

飛躍する女性経営者たち

「自分の困りごとを解決するグッズで急成長中」

株式会社ルカコ 代表取締役 仙田忍さん



大阪起業家スタートアップビジネスプランコンテスト第1位、平成27年度「大阪製」ブランド認証製品ロールモデル認定、平成28年に第15回「全国女性起業家大賞」優秀賞など起業家として飛躍のきっかけをつかんだ仙田さん

【企業情報】

住所：豊南町西 3-10-10
設立：平成 27 年
主な事業内容：
育児関連用品の企画・製造・販売

仙田忍さんの起業は、下の子が2歳のとき。抱っこひもの収納に困って手づくりしたカバーが友人たちに好評。ネット販売を始めたところ、「口コミ」注文が殺到しました。一人では回らなくなって、起業を決意。その時、考えたことは、子どもが小さいうちは休みたいときに遠慮なく休める、働くママにやさしい会社の姿。午前中3時間または午後4時間という条件で従業員を募集したところ、70人も応募がありました。「全員とお会いして、約半数の人に仕事を手伝ってもらったことになりました。その時

雇用できなかった人にも「ルカコがもっと大きくなったら雇用させてください」と手紙を書きました」。3か月ほどでまた回らなくなると、何人かに電話をする。すると「ぜひルカコで働きたい」と言ってもらったそうです。



製品は、一つひとつ細部にわたって検品。ママたちの高い縫製レベルがこだわり



抱っこひも収納カバー専門店「ルカコ」（ホームページより）

もともとパンコンとカメラと裁縫が趣味。好きなことは時間忘れてのめり込んでしまう性格が、素人の域を超えたネット

トショップに結実しました。

「でも、もっと好きなことは人とのご縁をつなぐこと」と言う仙田さんは、自分と同じ困りごとをもつママたちに誠意をもって対応します。「目の前にいる人のために120%の力を出したい」というひたむきさが、「ルカコ」のファンをまた増やしていきます。



販売促進・IT活用・税務など経営に役立つセミナーも多数開催しています

豊中 商工会議所って何するところ？

豊中商工会議所

住所：岡町北 1-1-2
電話：06-6845-8001
くわしくはこちらをご覧ください。



創業から資金繰りまで、事業経営に関わるあらゆる相談に応じている豊中商工会議所。経営指導員は、事業所の成長段階に応じて変化する課題に対して、解決に必要な専門家につながるなど具体的な支援を提案します。中小企業診断士や税理士のほかコピーライターやカメラマンまで、登録専門家の顔ぶれは多彩。事業経営に関する新しい情報を常に収集して、「半歩先」を提案することを心がけています。

他市の商工会議所では珍しい「IT推進室」を設けてIT専門サポーターが常駐するなど中小企業のIT活用の支援は特に力を入れています。パソコンスキルからシステム構築まで幅広いサポートが可能で、全国に先がけて行う「クラウド型ファンド」※にも取り組めます。支援を活用して店舗の開店資金調達できた事例も生まれています。

※クラウド型ファンド：プロジェクトの資金調達のために、インターネット上で企画内容と必要な金額を提示し、広く支援を呼びかける手法。多くの人々の共感を呼び応援してもらう側面が強い。



豊中の産業

豆知識

「豊中が第1号店」

全国に12,000超の店舗を展開する株式会社ローソンの1号店は、南桜塚にある「桜塚店」。昭和50年(1975年)6月にオープンし、現在も営業を続けています。また、関西・関東に261店舗(平成28年9月末時点)を展開する食品スーパーライフは、昭和36年に1号店が本町に開店し、当時、最新の欧米型スーパーマーケットとして評判を呼びました。さらに営業収益が5期連続、日本の小売業No.1であるイオン株式会社。その源流の一つにあたる株式会社シロも庄内駅前に「シロ」1号店を出店しました(昭和36年)。

マチの健康ステーション
LAWSON



「コナミグループ発祥の地」

アミューズメント機器の製造からスタートし、今では、デジタルエンタテインメント事業、健康サービス事業、ゲーミング&システム事業などを世界各国で展開する「コナミグループ」。リオデジャネイロオリンピックでは、内村航平選手をはじめとする所属選手も活躍しました。そんなコナミグループは、昭和44年に豊中市上津島で創業。昭和57年まで豊中市内に本社が置かれました。

KONAMI

「豊中に花の卸売市場」

大阪府内に数か所ある花き卸売市場のうち1か所が原田南にあります。切花を取り扱う梅田生花市場、鉢物を取り扱う大阪植物取引所があり、大型プロジェクトと高機能型応札機を導入し、7つのレーンで同時にセリが進みます。



地域発展の礎に
庄内地域の製造業が結束

八興会



昭和15年、のどかな田園風景が広がる豊能郡庄内町で、地元工場をもつ8社が参集。「やがて訪れる激動のとき、困窮のとき、事業者の結束が力になる」と相互の助け合いと切磋琢磨、地域の産業振興を目的に「八興会」が誕生しました。「信、礼、和、睦、徳、行、業、楽」の八つの精神が名前の由来です。地域防災や庄内町への財政支援などで協力し、さらに戦後の復興にも力を尽くしました。

高度経済成長期以降は、公害規制や環境対策、産業構造の変化にも結束して対応してきました。平成7年(1995年)の阪神淡路大震災では庄内地域は大阪府内で最大の被災地となりましたが、八興会では豊中商工会議所と一体となって復興を支援。公的資金の相談窓口を開設するなど被災者救済に取り組みしました。

現在は15社で構成され、地域防災活動の協力など地域貢献に加えて、企業間の相互交流、自己研鑽の場として例会での勉強会など発足時の精神が今日まで受け継がれています。